



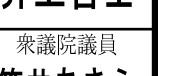
市議会議員
砂田喜昭
Tel 67-4322



衆議院議員
藤野保史



参議院議員
たけだ良介



参議院議員
井上哲士

衆議院議員
笠井あきら

禁無断転載
複写配布

ブルーインパルスの中止を

県平和委 砺波市に申し入れ

砺波市の夏野市長が、4月22日の「第70回となみチューリップフェア」開会式でのブルーインパルスの祝賀飛行計画を発表したことに対し、4月9日、富山県平和委員会代表理事堀内喜亨氏などが砺波市役所を訪れ、中止を要請しました。

砺波市のメンバーを含む訪問団は、「『花の祭典』という平和の趣旨と、戦闘機の密集展示飛行は相容れない。」「ブルーインパルスは過去に墜落事故も起こしており、市街地上空を飛ぶのは危険だ。」と申し入れました。市長が記者会見で「コロナ禍で頑張っている市民や医療関係者の激励」と述べたが、「それならブルーインパルスより関係者への直接支援こそ重要」と主張しました。

「ブルーインパルスの祝賀飛行の中止を求める要請書」を受け取った総務課主幹・防災危機管理班長の幡谷優氏は、市長に伝えると答えました。

自衛隊富山地方協力本部にも申し入れ

同日午後、県平和委員会と安保廃棄実行委員会は自衛隊富山地方協力本部を訪れて同様の申し入れをしました。その後県庁内で記者会見をし、10日付北日本新聞や有線テレビなどで報道されました。

市民の声

車の中で、ラジオを聞いていたら、チューリップフェアのブルーインパルス、話題になっていきますねえ！「初めて観るのでワクワクしています。子どもも楽しみにしています。子どもも楽しみにしています」と、リスナーの声

が、紹介されていました。私自身は、開幕イベントにブルーインパルスが、来ることを知らなかったもので、「えっ？」とびっくりしました。逆に女性の集まりでは、「嫌やねえ！」と、顔をしかめて語る人が、多く居ました。

「怖い」

演習繰り返す戦闘機に身の危険

娘の家の近くに大きな自衛隊基地があります。1日1回以上は、大きな爆音とともに、住宅地の上を飛行機が飛んでいきます。爆撃されるのではないかと思うような頭上ギリギリの飛行に、やっと歩くようになった孫があわてて走り寄って来たことがあります。

子どもでなくても、その怖さは体験してみると、実感します。今も1機、大きな音で飛んでいきました。10階以上のマンションもたくさんあるところですが、マジ低空飛行します！常に演習を繰り返している戦闘機をもつ米軍基地や自衛隊基地がある地域に住んでいる者にとっては身の危険を感じる怖さです。

コロナ禍のもと 75歳以上の医療費負担2倍化法案

コロナ禍のもと今国会に、病床削減推進法案とともに高齢者医療費2倍化法案が出されています。

現役世代の軽減わずか350円

国・自治体の軽減980億円
事業主負担360億円減

政府・自民党は「高齢者医療費2倍化法案」によって「現役世代の負担軽減」になるなどと吹聴していますが、国会審議で明らかになったのは、高齢者の医療費負担を2倍にすると一番負担が減るのは国・自治体で980億円、事業主負担は360億円です。現役世代の軽減は一人あたり年350円にしか過ぎません。日本共産党の宮本徹議員は「総理は『自助』というが、国と事業主の負担軽減こそ本当の狙いではないか」と批判しました。

「減らさずつけた国庫負担」を元に戻すべき

砂田市議も主張 3月議会最終日

砂田市議も3月議会最終日、後期高齢者医療会計について、年齢で差別する医療保険制度に反対してきたが、高齢者医療費2倍化法案が出されて、高齢者に受診抑制と医療費負担増を押しつける制度の危険性がいよいよ明らかになったと反対討論しました。

砂田市議は「75歳以上の高齢者は病気にかかりやすく、治療に時間がかかります。1割負担でも年収比で若い世代の4倍から6倍もの負担をしています。『現役世代の負担軽減』をいうなら減らさずつけてきた国庫負担を元に戻すべき」と主張しました。

爆音に苦しむ全国の人たち

「これではチューリップフェアを楽しめない」

ブルーインパルスのパフォーマンスが珍しい人には1回きりの楽しみかもしれませんが、戦闘機の怖さを体験しているものとしては、ブルーインパルスを見て喜ぶ姿を、地域の子どもらにみせたくはありません。

爆音に苦しんでいる全国の人達が、チューリップフェアを楽しめるとは思えません！

